

第2回、第3回農業WG（大分県・宮崎県）概略報告

1. 日時：4月19日（火） 大分県様  
4月20日（水） 宮崎県様

2. 概略報告

農業におけるITの活用については、概ね肯定的であり、期待できる内容については以下のとおりであった。（代表的なご意見のみ）

**【生産現場】**

- ・ 圃場管理（圃場が散在し、経営規模拡大のためには人力管理に限界）
- ・ 原価管理（持続的な経営のためには、コスト（特に人件費）の管理は不可欠）
- ・ 人材育成（情報の共有化や振り返り機能は必要）
- ・ GIS（精度が上がれば作業や原価管理につながる可能性あり）
- ・ 大手食品産業からの引き合いの際に、安心安全と安定供給のために、生産者として企業の経営を条件として求められるケースがある。

**【試験研究機関】**

- ・ 試験研究機関で所有するデータの生産現場への提供
- ・ 生産現場のデータの蓄積及び分析と、現場へのフィードバック

**【自治体（県）】**

- ・ 県をフィールドとしてモデルづくりをし、コアな部分を他県への展開すれば、効率的な全国農業IT基盤づくりが可能ではないか。

以上